識することができ、

らに情報発信に努めてほし

)共同学習や様々な行事等、

ムページやマスメディア等も活用しながら、

た理解啓発活動をはじめ、

啓発活動を通し

流は欠かせない活動である。

「域のつながりが苓北町の強み」であり、

同世代をはじめ、

業後の生活の充実に向けて、

本校のウェルビーイング

行

熊林県立苓北支援学校 〒863-2503 天草郡 **苓畑志岐1217番1** TEL 0969-35-1780 校長 小田 浩三

QR



ました。要素となるキーワードとして「多様性の理解」 等をあげ、 部を紹介します。 サポートの充実」 各委員の方より、 はウェ 安全安心な環境」「心身の健 様々な角度からのご意見や 「地域でのつながり」「生ードミーティングを実施 イングの 要素とし 小 7

学校及び関係機関と情報を共有しながら備えておく必要がある。半島地震を受け、地域の中の福祉避難所として、はまゆう療育問 幸福感にもつながっているのではないか。いて、児童生徒一人一人に合わせた工夫がされて 保護者会と学校と行事やボランティア活動 て、はまゆう療育園 地域の方々との交

おめでとうございま

3月15日(金)に、令和5年度卒業証書授与式が執り行われました。はまゆう療育園看護総師長 鳥羽瀬いずみ様を御来 賓にお迎えし、卒業生保護者、在校生などたくさんの方々に見守られ、卒業生5名が卒業証書を受け取りました。「送る言葉」 では、在校生を代表し、高等部2年生の沼田永遠さんが卒業生一人一人に向けて、一緒に過ごした学校生活の思い出を伝え ました。「お別れの言葉」では、卒業生全員が、素敵な思い出と感謝の気持ちを心を込めて発表しました。会場は、感動の涙と

温かい拍手に包まれました。

す

<卒業生>

者及びはまゆう療育園をはじめとする関係諸機関、

ご理解とご支援に心より感謝申し上げます

ることができ、それぞれに多くの経験値が上がったのではななく校外学習の回数も増え、特に修学旅行においては全学部、1

そして地域の皆様の温かい見るのではないかと思います。保証会学部、卒業生の全員が参加

見守

コロナ禍や新校舎への移転の時期を経て、

今年

度

は、ようや計五名の児

今年度は小学部一名、中学部一名、

会の実現』」に向けた教育の推進に努めてま

実践を積み重ね、

誰一人取り残されず、

らいりたいと思います。すべての人の可能性を引き出す

改善につなげることができました。これらを次年度の方針に組み込んで、

ことができ、また、情報発信に関しては課題として明らかになるなど、評他多数のご意見をいただき、これまで取り組んできた交流活動の意義を再

小学部6年 田中陽太さん 中学部3年 岩下乃愛さん 高等部3年 成田好夫さん 西川政昭さん 永野由美さん



文化芸術作品の応募や展示会への出展等を通した理解啓発活動をはじめ、別支援教育に関するセンター的役割としての機能をさらに発揮してほし、地域の園や学校への巡回相談や教材教具等の貸出・紹介、啓発活動を通おり教育の原点であると感じる。幸福感にもつながっているのではない。

教材教具の工夫や指導支援において、

熊本地震や能登半島地震を受け、 等で連携を図っていきたい。

## 令和 6 年度の主な行事

令和6年4月8日(月)就任式·始業式·入学式 20日(土)授業参観、PTA総会

9月28日(土)授業参観、第1回PTA役員会、個別面談

11月13日(水) → 指定休業日(全肢研熊本大会のため) 14日(木)

12月 1日(日)学習発表会、同窓会活動

令和7年 1月20日(日)授業参観、PTA研修会 3月14日(金)卒業証書授与式

※感染症等の影響で変更になる場合があります。御了承ください。

## 学校評価

今年度は18人の保護者様と20人のはまゆう療 育園職員様に回答をいただきました。御協力いた だいた皆様、貴重な御意見等をありがとうござい ました。

いずれの結果も本校の学習や授業に関する項 目及び教職員の児童生徒支援に関する項目に ついては、昨年度よりも高い評価をいただきまし た。感染症対策の項目については、保護者の方、 療育園職員の方ともに評価が下がる結果となり ました。新型コロナウイルスについては、今年度、 5類に移行したとはいえ、引き続き対策を徹底す るとともに、教育活動や行事場面における取組に ついて、皆様に丁寧に説明をしていく必要がある と感じています。

学校評価アンケートの集計結果につきましては、 3月中に本校ホームページに掲載いた します。詳細は、そちらを御覧ください。